

A N N U A L R E P O R T 2 0 1 4

年次報告書



公益財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会

ごあいさつ



公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会会長

今井 敬

当協会は、1990年に開催された「国際花と緑の博覧会」の「自然と人間との共生」という理念を永く継承発展させるため設立され、以後、潤いのある豊かな社会の創造に向けて、様々な事業を行ってまいりました。

2014年度は、協会の主要事業である「コスモス国際賞」(第22回)の受賞者にフランスのコレージュ・フランス教授のフィリップ・デスコラ博士を選出いたしました。デスコラ博士は、南米アマゾンのアチュアの人々の自然観と諸活動の調査から哲学的な思想へと論を進め、自然と文化を統合的に捉える「自然の人類学」を提唱しました。これは、欧米の人間中心主義の考え方に反駁したもので、西洋の園芸博に東洋の自然観を提示した花の万博の理念にも通じるものと評価した次第です。

助成・協働事業におきましては、東北の緑化支援事業の展開などに取り組み、普及啓発・国際交流事業、調査研究・資料収集事業におきましても、有意義な成果をあげることができました。

本書は、これら2014年度の当協会の事業の取り組みをまとめたものです。ご一読いただき、各事業の趣旨並びに取り組みについてご理解をいただければ幸いに存じます。

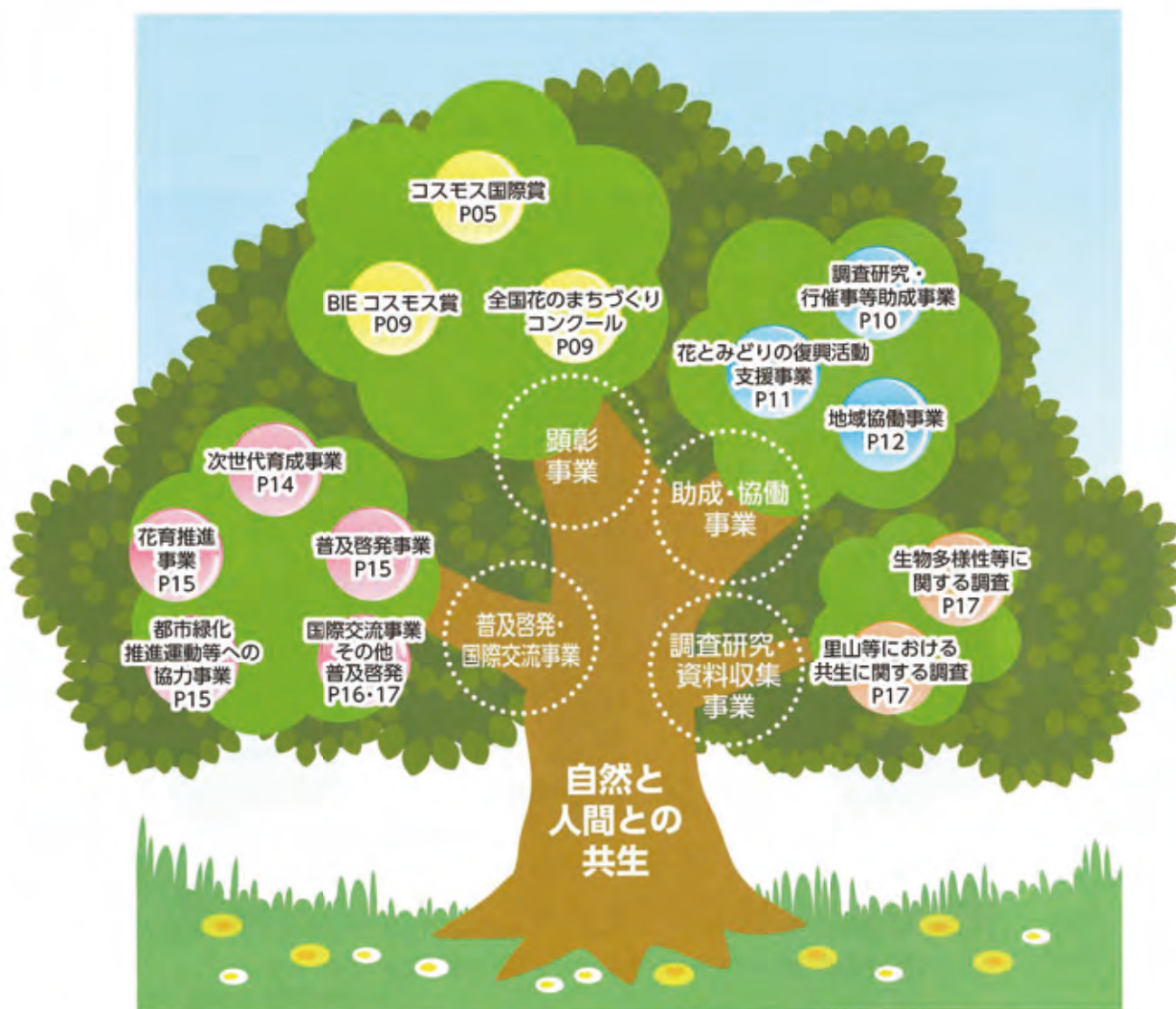
2015年度は、公益財団法人へ移行し、3年目となります。これまでの実績を踏まえた事業推進はもちろん、さらに公益法人にふさわしい活動を進めてまいり所存でございますので、皆様方の引き続きのご支援とご協力をお願い申し上げます。

皇太子同妃両殿下ご接見



コスモス国際賞受賞者フィリップ・デスコラ博士は、皇太子同妃両殿下とお会いになった。
(平成26年11月7日 東宮御所にて)

公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会は、潤いのある豊かな社会の創造に寄与することを目的として、「自然と人間との共生」という理念の継承・発展につなげる事業を実施しています。



設立趣意書

平成2年4月1日から9月30日までの183日間、大阪・鶴見緑地において開催された国際花と緑の博覧会(以下「花の万博」という。)は、多くの人々に花と緑に象徴される命、それをはぐむ大きな自然の営みに目を向けさせ、新鮮な感動を呼んだ。人間も自然のなかで生きる存在としてとらえ、自然と人間との共生の道をさぐろうとした博覧会のねらいは、ひとまず達成されたものと考えられる。

しかし、こうした理念の下に21世紀に向けて潤いのある豊かな社会を創造していくためには、国をあげてのたゆみない継続した努力が必要とされる。その点火役となった博覧会を一過性に終わらせることなく、その基本理念を継承、発展させ、新しい社会創造の動きに結実させていくことは、われわれ博覧会にたずさわった者の責務であるとする。

そのため、博覧会にたずさわった関係者の協力を得て、ここに財団法人国際花と緑の博覧会記念協会を設立し、21世紀に向けた潤いのある豊かな社会創造の一助とすることにより永くその責務をはたそうとするものである。

平成3年11月1日

顕彰事業

コスモス国際賞

「自然と人間との共生」という理念を継承し、さらに発展させるため、この理念に沿った国内外の優れた研究活動や業績を顕彰する「コスモス国際賞」(以下「コスモス賞」)の2014年(第22回)受賞者を迎え、授賞式等を次のとおり実施しました。

受賞者の選考等 コスモス賞委員会(以下「賞委員会」)及びコスモス賞選考専門委員会(以下「選考委員会」)を設置し、選考作業を行いました。

<2014年(第22回)受賞者の選考・決定等>

第1回・第2回選考委員会(平成26年5月20日、6月5日)

第3回選考委員会(平成26年7月3日)

第1回賞委員会(平成26年7月3日)

2014年コスモス賞受賞候補者にフィリップ・デスコラ博士(コレージュ・ド・フランス教授)が選出されました。

第83回理事会(平成26年7月29日)

賞委員長より選考の経緯及び結果が報告され、受賞者として決定しました。

また、7月31日に内外の報道機関に対し、記者発表等を実施しました。



2014年(第22回)コスモス賞受賞者

フィリップ・デスコラ博士
(コレージュ・ド・フランス教授)

人類学者として、南米アマゾンに住む先住民アチュアの自然観とそこの自然と関わる諸活動に焦点を当て、これらの綿密な調査から哲学的な思想へと論を進め、自然と文化を統合的に捉える「自然の人類学」を提唱した。

<2015年(第23回)受賞者の選考等>

第2回賞委員会(平成27年1月16日)

2014年
(第22回)
コスモス賞
授賞式の開催

国内外の賓客及び招待者約400名の参列のもと、厳粛かつ華やかに実施しました。

授賞式

日 時:平成26年10月30日(木)午後3時~5時

場 所:いずみホール[大阪市中央区]

出席者:約400名

次 第:開会 賞委員及び選考専門委員等の紹介

主催者紹介 来賓紹介(2008年コスモス国際賞受賞者ファン・ゲン・ホン博士、シャルランリ・プロソー在京都フランス総領事、近藤秀樹農林水産省近畿農政局次長、舟引敏明国土交通省大臣官房審議官、小河保之大阪府副知事、田中清剛大阪市副市長)

主催者挨拶 授賞理由及び受賞者の紹介

受賞者入場 賞状・賞金目録贈呈

メダル贈呈 来賓祝辞(安倍晋三内閣総理大臣、ティエリー・ダナ駐日フランス大使) 受賞者講演

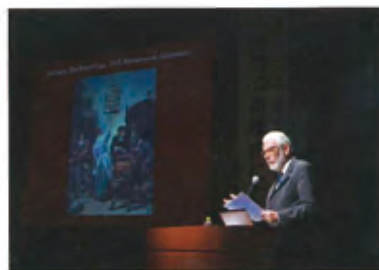
祝賀演奏 閉会



顕彰事業

2014年コスモス国際賞受賞記念講演会
 コスモス国際賞授賞式の関連行事として2014年受賞者フィリップ・デスコラ博士による講演会を開催しました。

	●東京	●大阪
日時	平成26年10月27日(月) 午後4時～6時	平成26年10月29日(水) 午後4時～6時
場所	東京大学 伊藤国際学術研究センター 伊藤謝恩ホール(東京都文京区)	大丸心斎橋劇場 [大阪市中央区]
講演	テーマ	「世界の再構成にむけて」
	講師	2014年(第22回)コスモス国際賞受賞者 フィリップ・デスコラ博士(コレージュードフランス教授)
次第等	講師等	受賞者紹介 武内和彦 (コスモス国際賞選考専門委員会委員長、 東京大学サステイナビリティ学連携研究機構長・教授)
	対談	対談 フィリップ・デスコラ博士 秋道 智彌 (総合地球環境学研究所名誉教授、 コスモス国際賞選考専門委員会委員)
参加者	約350名	約200名
共催	東京都教育委員会(東京開催)	
後援	農林水産省、国土交通省、文部科学省、環境省、大阪府(大阪開催)、大阪市(大阪開催)	



コスモス国際賞歴代受賞者

当協会の主事業である「コスモス国際賞」は、「自然と人間との共生」という理念の発展に貢献し、「地球生命学」とも呼ぶべき、地球的視点における生命相互の関係性、統合性の本質を解明しようとする研究活動や学術活動を顕彰するために設けられた国際的な顕彰です。

1993年(第1回) 平成5年
ギリアン・フランス 卿
Sir. Ghillean Prance



英国・王立キュー植物園園長
南米アマゾン地域を中心とする熱帯植物研究の権威。地球全域の植生を統一データ化する地球植物誌計画を提唱、世界の植物学者とネットワークを組んで実現に努力した。

1994年(第2回) 平成6年
ジャック・フランソワ・バロー (物故)
Dr. Jacques Francois Barrau



仏国・パリ国立自然史博物館教授
太平洋の島々の自然と人たちの暮らしについて民族生物学的な調査研究を行い、これを基に、人間と食糧をテーマに、全地球的な視点から、ユニークな考察を発表した。

1995年(第3回) 平成7年
吉良 龍夫 (物故)
Dr. Tatu Kira



日本・大阪市立大学名誉教授
光合成による植物の有機物生産の定量的研究を基に、生態学の新分野となる生産生態学を確立。東南アジア地域の熱帯林生態系の研究で指導的な役割を務めた。

1996年(第4回) 平成8年
ジョージ・ビールズ・シャラー
Dr. George Beals Schaller



米国・野生生物保護協会科学部長
40年にわたり、世界各地でさまざまな野生動物の生態と行動を研究。「マウンテンゴリラ・生態と行動」「ラストパンダ」など数多くの著書で全世界に野生動物の実態を知らせた。

1997年(第5回) 平成9年
リチャード・ドーキンス
Dr. Richard Dawkins



英国・オックスフォード大学教授
1976年に出版された著書「利己的な遺伝子」で、生物学の常識をくつがえす大胆な仮説を発表。その後も、生物の進化について新しい見解を提示して学界に論争を起こしている。

1998年(第6回) 平成10年
ジャレド・メイスン・ダイヤモンド
Dr. Jared Mason Diamond



米国・カリフォルニア大学ロサンゼルス校教授
医学部で生理学を研究する一方、30年にわたりニューギニアの熱帯調査を行い、これらを基に、人類の歴史的な発展を再構成したユニークな考察を発表した。

1999年(第7回) 平成11年
呉 征鎰(ウー・チェン・イー) (物故)
Dr. Wu Zheng-Yi



中国・中国科学院昆明植物研究所教授・名誉所長
中国を代表する植物学者。中国を拠点に東アジア地域の植物の調査研究に取り組み、中国全土の植物の種の多様性を網羅する「中国植物志」の編集を主導、刊行を実現させた。

2000年(第8回) 平成12年
デービッド・アッテンボロー卿
Sir David Attenborough



英国・映像プロデューサー
野生生物のドキュメント映像のバイオニア。BBC時代から退社後を含め、約半世紀にわたって、地球上の野生の動植物の生の姿を、優れた映像で全世界に伝えた。

2001年(第9回) 平成13年
アン・ウィストン・スパーン
Prof. Anne Whiston Spirn



米国・マサチューセッツ工科大学教授
都市と自然は対立するものでなく、周辺の地域環境と調和し、その一部として存在する都市の構築が可能であるとし、都市が自然との調和をはかりながら発展する方策を示した。

2002年(第10回) 平成14年
チャールズ・ダーウィン研究所
The Charles Darwin Research Station



エクアドル
1964年設立の生物学研究所。南米エクアドル領のガラパゴス諸島で、ゾウガメ、イグアナなど、特異な固有生物の調査研究と保護に当たっている。

コスモス国際賞歴代受賞者

2003年(第11回) 平成15年
ピーター・ハミルトン・レーブン
Dr. Peter Hamilton Raven



米国・ミズーリ植物園園長
米国を代表する植物学者で、地球の生物多様性の保全を提唱した国際的な先駆者。常に地球的な視点で生命の問題を考え、学術と実践両面で自然と人間との共生に貢献した。

2004年(第12回) 平成16年
フーリャ・カラビラス・リジョ
Prof. Julia Carabias Lillo



メキシコ・メキシコ国立自治大学教授
途上国の立場から全地球的な環境問題を考え、フィールドワークとさまざまな学問分野の研究を統合したプログラムを実施し、異なる条件下での困難な課題に優れた成果を挙げた。

2005年(第13回) 平成17年
ダニエル・ポーリー
Dr. Daniel Pauly



カナダ・ブリティッシュ・コロンビア大学水産資源研究所所長兼教授
漁業と海洋生態系の関連を包括的に研究。海洋生態系保全と水産資源の持続的利用を可能にする科学的モデル開発など、海洋生態系と資源研究の分野で優れた業績を収めた。

2006年(第14回) 平成18年
ラマン・スクマル
Dr. Raman Sukumar



インド・インド科学研究所 生態学センター教授
ゾウと人間との生態関係や軋轢への対応をテーマとした研究から、生物多様性保護と自然環境の保全全般にわたる多くの提言を行い、かつ実行し、野生生物と人間との共存という分野での先駆的な取り組みを行った。

2007年(第15回) 平成19年
ジョージナ・メアリー・メイス
Dr. Georgina Mary Mace



英国・ロンドン大学自然環境調査会議体群生物学研究センター所長兼教授
絶滅危惧種を特定・分類し、科学的な基準を作成することにおいて指導的役割を果たし、種の保全、生物多様性保全に大きく貢献する取り組みを行なった。

2008年(第16回) 平成20年
ファン・グエン・ホン
Dr. Phan Nguyen Hong



ベトナム・ハノイ教育大学名誉教授
戦争や乱開発がマングローブの生態系に壊滅的な打撃を与えたベトナムで、博士はマングローブの科学的、包括的な調査・研究を行い、マングローブ林の再生に大きな成果をおげた。

2009(第17回) 平成21年
グレッチェン・カーラ・デイリー
Dr. Gretchen Cara Daily



米国・スタンフォード大学教授
生物多様性のもつ「生態系サービス」の価値を包括的に捉えて、「国連ミレニアム生態系評価」など国際的な取り組みに貢献するとともに、生態学・経済学を統合し、「自然資本プロジェクト」を実施する等大きな役割を果たした。

2010年(第18回) 平成22年
エステラ・ベルグレ・レオポルド II
Dr. Estella Bergere Leopold II



米国・ワシントン大学生物学部名誉教授
花粉学者であり自然保護論者として博士の父アルド・レオポルド氏(1887-1948)が提唱した「土地倫理」の思想を継承、追求すると共に、アメリカ各地においてこの考えを広げるなど、多大な功績を残した。

2011年(第19回) 平成23年
海洋生物センサス科学推進委員会
The Scientific Steering Committee of
the Census of Marine Life



海洋生物の多様性、分布、生息数についての過去から現在にわたる変化を調査・解析し、そのデータを海洋生物地理学情報システムという統合的データベースに集積することにより、海洋生物の将来を予測することを目指す壮大な国際プロジェクト「海洋生物センサス」を主導した。

2012年(第20回) 平成24年
エドワード・オズボーン・ウィルソン
Dr. Edward Osborne Wilson



米国・ハーバード大学名誉教授
アリの自然史および行動生物学の研究分野で卓越した研究業績をあげ、その科学的知見を活かして人間の起源、人間の本性、人間の相互作用の研究に努めた。

コスモス国際賞歴代受賞者

2013年(第21回) 平成25年
ロバート・トリート・ペイン博士
Dr. Robert Treat Paine



米国・ワシントン大学名誉教授
生物群集の安定的な維持に捕食者の存在が不可欠なことを、明快な野外実験によって示し、キーストーン種という概念を提唱したことにより、生態学はもとより保全生物学や、一般の人々の生物多様性への理解に大きな影響を与えた。

委員会

コスモス国際賞委員会委員 平成26年4月1日現在(50音順)

委員長	岸本 忠三	大阪大学免疫学フロンティア研究センター特任教授
副委員長	古在 由秀	国立天文台名誉教授
委員	尾池 和夫	京都造形芸術大学学長
委員	加藤 雅啓	東京大学名誉教授
委員	金澤 一郎	元日本学術会議会長
委員	小山 修三	(一財)千里文化財団理事長
委員	鈴木 昭憲	東京大学名誉教授
委員	武内 和彦	東京大学サステナビリティ学連携研究機構長-教授
委員	中村 桂子	JT生命誌研究館館長
顧問	有馬 朗人	(学)根津育英会武蔵学園理事長

コスモス国際賞選考専門委員会委員 平成26年4月1日現在(50音順)

委員長	武内 和彦	東京大学サステナビリティ学連携研究機構長-教授
副委員長	野家 啓一	東北大学教養教育院 院長特命教授
委員	秋道 智彌	総合地球環境学研究所名誉教授
委員	池内 了	総合研究大学院大学名誉教授
委員	今福 道夫	京都大学名誉教授
委員	モンテ・カセム	立命館大学名誉教授
委員	ケビン・ショート	東京情報大学環境情報学科教授
委員	村上 哲明	首都大学東京大学院理工学研究科教授
委員	鷲谷いづみ	東京大学大学院農学生命科学研究科教授

BIEコスモス賞

当協会の存在とコスモス国際賞の海外広報のため、BIE(博覧会国際事務局:本部/パリ)とその創設を合意した「BIEコスモス賞」を支援しています。平成26年度は、2015年ミラノ万博において授賞される第4回BIEコスモス賞について、イタリア・ミラノにて、BIEとミラノ万博協会との協議を行い、具体的な実施方法を決定しました。これを受けて、平成26年から11月から27年3月にかけて全世界に公募が行われ、11ヵ国から47件の応募がありました。その後、これら応募に対して、予備選考作業が行われました。なお、第4回BIEコスモス賞の授賞式(平成27年10月30日)では、賞金2万ユーロの提供を予定しています。

全国花のまちづくりコンクール

花の万博の開催を契機に、「花と緑の国づくり・まちづくり」をめざして、農林水産省及び国土交通省の提唱により平成3年度に創設された本コンクールに参画しました。

第24回 (2014年)全国 花のまちづくり コンクール

応募数: 2,160件
入賞: 農林水産大臣賞及び国土交通大臣賞 各2点をはじめ25点
表彰式
開催日: 平成26年10月24日(金)
場所: 法曹会館[東京都千代田区]
受賞者: 市町村、団体、個人、企業の4部門
主催: 花のまちづくりコンクール推進協議会
[当協会、(公財)日本花の会、(公財)都市緑化機構、
(一財)日本花普及センター]



まちづくりリーダー養成講座OB会



南砺市



さがみ野やすらぎ街づくり委員会



六甲アイランドCITY自治会ローズガーデンファミリー

助成・協働
事業

調査研究・行催事等の助成事業

花の万博の理念の継承発展又は普及啓発のため調査研究、技術開発、活動、行催事等を支援する助成事業を実施しました。

平成26年度
助成事業

平成26年度は20件の事業を助成しました。

●事業区分	●助成事業名	●助成団体名
調査研究開発	日本産シダ植物分布状況変遷のモニタリング調査	日本シダの会
	ブナ林の維持・再生に係るブナ個体の生育条件の研究	日光植物園生態学チーム
	絶滅危惧種ナガノモウセンゴケ保全に必要な環境解明	道北の湿原保全グループ
	地方博物館の資料を活かした中生代植物化石図鑑制作	中生代植物研究会
	本州中部の希少地形に成立する群落の保全生態学的研究	信大自然科学研究会
	ランドスケープ遺産イベントリー作成事業	公益社団法人 日本造園学会
	アキアカネの生育数・行動圏についての市民参加型調査	琵琶湖博物館フィールドレポーター
	番所山(南方熊楠の森)自然調査事業	公益財団法人 南方熊楠記念館
	都市部に残された水田環境の植物調査及び普及啓発	特定非営利活動法人 大阪自然史センター
	大隅諸島の移入シカ管理と生物相保全のための基礎研究	薩南ニホンジカ調査研究ネットワーク
	複色花西洋橋品種成立に関与した久留米橋の調査研究	九州大学園芸学研究室ツバキ研究会
	活動・行催事	福島っ子応援みどりの宅配便 平成26年度推進事業
久宝寺緑地ヒーリングガーデナー養成講座		久宝寺緑地ヒーリングガーデナークラブ
かめおか里山里道トレイルの活用—植物回廊図鑑—		かめおか里道里山探検倶楽部
「かんべの里周辺における里山の環境をよみがえらせる事業」		バイオマス総合研究センター
花の文化園中心に近隣地域の児童・生徒対象の花育事業		NPO法人 フルル花と福祉の地域応援ネット
仮設住宅住民との協働によるコミュニティガーデン活動		東京農業大学教育後援会
桜の園広報事業		鎮守の森の会
郡山城跡の桜を後世に引き継ぐ市民プロジェクト		郡山城跡・桜守の会
シンポジウムの開催と岩手県山田町における植樹事業	NPO法人 社叢学会	

平成26年度
主な助成事業



ブナ林の維持・再生に係るブナ個体の生育条件の研究



アキアカネの生育数・行動圏についての市民参加型調査



仮設住宅住民との協働によるコミュニティガーデン活動



地方博物館の資料を活かした中生代植物化石図鑑制作



福島っ子応援みどりの宅配便平成26年度推進事業



郡山城跡の桜を後世に引き継ぐ市民プロジェクト

平成27年度
助成対象の決定

平成27年度の助成対象を決定しました。

〈公募〉公募期間:平成26年8月1日(金)~9月17日(水)
応募件数:101件

〈審査〉審査期間:平成26年10月~12月

〈決定〉助成事業審査委員会の審査結果報告が理事長に答申され、助成対象24件を平成27年3月30日(月)開催の第84回理事会にて決定しました。

助成事業
成果発表会の開催

助成事業の成果を広く波及させるため、助成事業成果発表会等を開催しました。

日 時:平成26年9月13日(土)午後1時~7時
場 所:日本大学三島駅北口校舎(静岡県三島市)
来場者:約200名

内 容:過去の助成団体の中から5団体が事業の内容やその成果について発表を行い、併せて「地球は大きな貯金箱」と題して、ジョン・ギヤスライト氏(ツリークライミング®ジャパン代表・中部大学教授)による講演会と、団体と参加者による交流会を開催しました。

共 催:NPO法人グラウンドワーク三島、ガーデンシティみしま推進会

協 力:静岡県三島市

後 援:農林水産省、国土交通省、静岡県ほか5団体



委員会

花博記念協会助成事業審査委員会委員 平成26年4月1日現在(50音順)

委員長 尼崎博正 京都造形芸術大学教授

副委員長 丸山 宏 名城大学農学部教授

委員 佐倉 統 東京大学大学院情報学環教授

委員 須磨佳津江 キャスタージャーナリスト

委員 長村智司 (一社)フラワーサイエティ会長

委員 鷺谷いづみ 東京大学大学院農学生命科学研究科教授

花とみどりの復興活動支援事業

東日本大震災の復旧・復興を花とみどりで支援するため、「花とみどりの復興支援ネットワーク」に参加し、復興活動に対する支援金の提供を行いました。

平成26年度
支援内容

公募期間:平成26年4月1日(火)~平成27年3月31日(火)

支援件数:7件

支援総額:1,700,000円

● 団体名	● 内容
特定非営利活動法人 スマイルシード	防災を意識した「雑木の森の公園」整備
NPO法人 ガーデンを考える会	花苗等による被災地小学校の支援
NPO法人 Green Fields	沿道花壇「フラワーロード」の花壇整備
特定非営利活動法人 光と風	「心の癒しのガーデンづくり」を通じた復旧・復興まちづくり
NPO法人 勿来まちづくりサポートセンター	被災者等のストレス解消等を目的とした植樹活動
大槌町花と夢いっぱいプロジェクト	国道沿いの花壇の整美活動
Team 隊長	大槌町ハマギク復活プロジェクト



NPO法人ガーデンを考える会



NPO法人スマイルシード



NPO法人勿来まちづくりサポートセンター

2014年度事業実績

助成・協働事業

地域協働事業

花の万博の理念継承及び普及啓発のため、平成24年度から地方公共団体、企業、ボランティア、住民等と協働しての花と緑のまちづくり事業を開始し、平成26年度は、これらの事業のうち、特に協会の理念継承に資する事業や特に効果の高かった事業について、対象を全国に広げて実施しました。

歴史の道みどりの拠点づくり事業

●実施団体	●所在地	●事業概要
篠山市	兵庫県篠山市	武家屋敷が建ち並ぶ御徒士町通りに地元自治会と連携してみどりの拠点を整備
葛城市観光協会	奈良県葛城市	竹内街道・横大路の魅力を高めるため「緑の一里塚」を整備
能勢町	大阪府豊能郡能勢町	能勢街道と亀山路の宋橋交差点においてみどりの拠点を整備
能勢町	大阪府豊能郡能勢町	能勢街道沿いの道の駅「くりの郷」の敷地内のみどりの拠点を整備
河内長野市	大阪府河内長野市	高野街道沿いの三日市町駅前にて石灯笼を移設して新しいみどりの拠点を整備



篠山市



葛城市観光協会



河内長野市

子どもたちと育てる花とみどりによるコミュニティづくり事業

●実施団体	●所在地	●活動内容
安朱小学校中庭整備委員会	京都市伏見区	学校内の花時計や中庭の整備、近隣の公共施設への花苗配布
周山街道花開きまつり実行委員会	京都市右京区	周山中学校の生徒会活動として、地域の活性化や祭りの盛り上げ等への花苗の活用
登美ヶ丘中学校	奈良市登美ヶ丘	学校内の花壇整備や地域の公共施設に花苗を配布することにより、花があふれる地域づくりに貢献
大安寺西小学校	奈良市大安寺西	学校内の花壇整備や近隣の幼稚園、河川沿いへの花苗の配布
東淡路-築島地域活動協議会	大阪市東淀川区	東淡路小学校内の花壇整備や地域の公共施設に花苗を配布することにより、花いっぱいのもちづくりに貢献
鶴洲小学校花とみどりの実行委員会	大阪市福島区	鶴洲小学校内の花壇や地域の公共施設に花苗を配布することにより、花いっぱいのもちづくりに貢献



安朱小学校



周山中学校

花博みどりの
東北支援事業

寄付金を活用し、東日本大震災の被害が大きかった岩手・宮城・福島の3県において、地元自治体やNPOなどと協働し、緑化を中心とした植樹・植栽活動等の「花博みどりの東北支援事業」を実施しました。

●実施団体	●所在地	●事業概要
大福鹿子踊「神の森どろのきプロジェクト」	岩手県上閉伊郡大槌町	伝統の鹿子踊の衣装に使用するドロノキの苗木を植林
白石市	宮城県白石市緑が丘町	震災で崩落した緑が丘公園の復活をめざし、サクラと白ツツジを植樹
逢瀬河内さくらの会	福島県郡山市逢瀬町	震災で避難してきた児童も参加し、「さくらの里」を目指して逢瀬川沿いにサクラを植樹
いわき市四倉地区緑化推進委員会	福島県いわき市四倉町	地域の復興に向け、桜の園をめざし、サクラを植樹



大福鹿子踊
「神の森どろのきプロジェクト」



白石市



逢瀬河内さくらの会



いわき市四倉地区緑化推進委員会

第3回みどりの
風フォーラム

花の万博の理念の浸透を図るため、都市部における緑化や、ヒートアイランド現象の緩和という課題に対し、最前線の情報や活動内容を発信するフォーラムを開催しました。

テーマ：大阪のみどりは如何にあるべきか

日時：平成27年3月2日(月)午後1時30分～5時30分

場所：大丸心斎橋劇場(大阪市中央区)

基調講演 石川 幹子(中央大学教授)

報告① 嘉名 光市(大阪市立大学准教授)

報告② 武田 重昭(大阪府立大学助教)

ディスカッション 石川 幹子、嘉名 光市、武田 重昭

参加者：約250名

協力：毎日新聞大阪本社

後援：農林水産省、国土交通省、大阪府、大阪市



第3回みどりの
交流広場

みどりの環境創出や保護の活動をしている市民、企業、団体等の発表の場を設けることにより、情報の共有や協働のネットワークを促進させるみどりの交流広場を開催しました。

日時：平成27年2月15日(日)午後1時～5時30分

場所：花博記念ホール(大阪市鶴見区)

参加団体：20団体

聴講者：約100名

後援：大阪府、大阪市



普及啓発・
国際交流事業

次世代育成事業

花の万博の理念の継承発展のため、コスモス賞や協会に関係する学者、知識人等を講師に招き、屋外での自然観察(フィールド型)教室、講師派遣型セミナーを行うとともに、毎日新聞大阪本社との共催による「小・中学校における生態園づくり」を実施しました。

コスモスセミナー
自然観察教室
～生まれ生きもの
好きな子供たち
2014～

開催日:平成26年8月11日(月)～8月12日(火)
場 所:兵庫県立奥猪名健康の郷(兵庫県川辺郡猪名川町)
講 師:久留飛克明(箕面公園昆虫館館長)
澤田 義弘(箕面公園昆虫館スタッフ)
参加者:近畿圏の小学4年～6年生、中学1年生 22名
旅行主催・実施:近畿日本ツーリスト株式会社大阪法人旅行支店
後 援:大阪府、兵庫県、兵庫県教育委員会、猪名川町教育委員会、
JT生命誌研究館、日本環境教育学会、日本昆虫学会、
日本生態学会、日本動物行動学会、日本昆虫協会



小学校講師派遣

● 実施日	● 実施校および参加者	● テーマ	● 講師
平成26年6月18日	大阪市立梅南小学校 小学6年生35名	昆虫や小動物の生態	谷 幸三((一社)淡水生物研究所理事)
平成26年6月18日	大阪市立長橋小学校 小学1年生27名	動物の不思議	長瀬健二郎(元天王寺動物園園長)
平成26年6月20日	大阪市立長橋小学校 小学2年生31名	水中生物の不思議	今福道夫(京都大学名誉教授)
平成26年6月25日	私立金剛学園小学校 小学4～6年生62名	自然生命の不思議について	佐藤洋一郎(京都産業大学教授)
平成26年8月30日	熊勢町立田尻小学校 小学4～6年生17名	自然生命の不思議について	長瀬健二郎(元天王寺動物園園長)
平成26年7月1日	大阪市立瓜破小学校 小学4年生72名	「生命・自然」について	佐藤洋一郎(京都産業大学教授)
平成26年7月9日	大阪市立吉野小学校 小学6年生70名	食物連鎖について	佐藤洋一郎(京都産業大学教授)
平成26年7月14日	吹田市立佐井寺小学校 小学2年生106名	自然生命の不思議について	長瀬健二郎(元天王寺動物園園長)
平成26年9月17日	堺市立三国丘小学校 小学3年生97名	昆虫について	谷 幸三((一社)淡水生物研究所理事)
平成26年9月30日	河内長野市立南花台小学校 小学3年生59名	身近な生き物	谷 幸三((一社)淡水生物研究所理事)
平成27年1月19日	大阪市立波除小学校 小学2年生119名	動物の命について	長瀬健二郎(元天王寺動物園園長)
平成27年2月18日	大阪市立森ノ宮小学校 小学3-4年生32名	昆虫について	谷 幸三((一社)淡水生物研究所理事)



小・中学校に
おける
生態園づくり

● 学校名(所在地)	● 内 容
大阪市立北田辺小学校(大阪府大阪市)	北田辺小 水と緑のオアシス 生き物とのふれあいの径整備
箕面市立止々呂美小・中学校(大阪府箕面市)	オオムラサキ復活プロジェクト「とどろみの森」づくり
神戸市立駒ヶ林小学校(兵庫県神戸市)	ふれあいピオトープでシャベリーノ
綾部市立中筋小学校(京都府綾部市)	「あいLOVE中筋」～「あい」育み園



花育推進事業

花と緑による情操教育を目的とした花育活動を推進する全国花育推進協議会に参加し、関係団体とともに講習会やセミナー等の実施などの事業を行いました。

都市緑化推進運動等への協力事業

春の都市緑化推進運動期間(4~6月)及び都市緑化月間(10月)における「みどりの愛護のつどい」や都市緑化キャンペーン活動等の事業を支援するため、都市緑化推進運動協力会に協力等を行いました。



普及啓発事業

花の万博開催の地元において理念の継承発展・普及啓発に関する事業を地元公共団体及び関連団体と協働して実施しました。

大阪都市緑化フェア2014

花と緑あふれる豊かな街づくりを進め、都市緑化に関する府民の意識の高揚や知識の普及を図ることを目的に開催されている本フェアに参画し、支援を行いました。また、会場内の出展ブースにおいて協会の事業紹介パネルの展示を行いました。

開催日:平成26年10月26日(日)

場 所:大仙公園(堺市堺区)

来場者:約3,000名

内 容:花苗・球根の配布、植木市、緑化相談、園芸講習会など

主 催:当協会、大阪府、(公財)堺市公園協会



はならんまん2014

大阪市民の花や緑のまちづくりへの関心を高め、花と緑を育てる伝統や文化への理解を促すことを目的とした本事業に参画し、協会の事業紹介パネルの展示を行いました。

開催日:平成26年11月15日(土)~16日(日)

場 所:長居植物園(大阪市東住吉区)

来場者:約19,000名

内 容:市民花壇の展示、花と緑の相談、園芸講習会など

主 催:当協会、大阪市



第4回 みどりのまちづくり賞

みどりのまちづくりや、市民の花やみどりに関する知識、技術力の向上を図ることを目的とした本事業に参画し、会長賞を授与しました。



みどりの風の道効果測定

みどりの風の道形成事業を導入する民間施設・団体に対し、緑化による効果を把握するため、アンケート調査及び聞き取り調査を実施しました。

情報誌オアフの発行

花と緑の拠点である公園での過ごし方、利活用並びに協会の紹介記事を盛り込んだ情報誌(オアフ)70,000部を、産経新聞社と作成、配布し、電子情報を協会ホームページにも掲載しました。



普及啓発・
国際交流事業

その他の普及啓発

花の万博の理念の普及啓発のため、各種団体等が実施する行催事等を協賛、後援等を行いました。また、各事業の広報等を実施しました。

後援等一覧	●催事名(開催時期)	●開催場所	●主催	●名義等
	第16回「国際バラとガーデニングショウ」 (H26.5.10~5.16)	西武ドーム 〔埼玉県所沢市〕	国際バラとガーデニング ショウ組織委員会	後援
	第11回 2014 周防町通り「はなまつり」 (H26.5.12~5.18)	周防町通り(堺筋~御堂筋間)と 大阪市立南小学校〔大阪府中央区〕	ヨーロッパ村周防町通り 商店会	後援
	大阪ばら祭2014 (H26.5.16~5.18)	花博記念公園鶴見緑地内 咲くやこの花館〔大阪府鶴見区〕	(一財)大阪スポーツ みどり財団	後援 会長賞
	2014年国際生物多様性の日シンポジウム 「つながりと個性を活かした自然と共生する鳥づくり」 (H26.5.22)	国連大学本部 エリザベス・ローズ会議場 〔東京都渋谷区〕	国連大学 サステイナビリティ 高等研究所	後援
	平成26年度大阪府立花の文化園幼児・ 小中学生花の絵画展(H27.1.6~2.1)	大阪府立花の文化園(フルルガーデン) イベントホール〔大阪府河内長野市〕	(一財)大阪府みどり公社	後援 会長賞
	水都おおさか森林の市2014 (H26.10.5)	近畿中国森林管理局 毛馬桜ノ宮公園周辺〔大阪府北区〕	水都おおさか森林づくり・ 木づかい実行委員会	後援
	平成26年度「都市緑化月間」 (H26.10.1~10.31)	全国	国土交通省、都道府県、 市町村	協賛
	2015日本フラワー&ガーデンショー (H27.4.10~4.12)	幕張メッセ9番ホール〔千葉県美浜区〕	(公社)日本家庭園芸普及協会	協賛
	公開造園フォーラム (H26.9.28)	ホテル阪急インターナショナル4階 〔大阪府北区〕	阪神造園建設業協同組合	後援
	フラワーアートミュージアム2014 (H26.10.1~10.15)	JR大阪駅〔大阪府北区〕	大阪ターミナルビル㈱	後援
	第69回日本おもと名品展 (H26.11.22~11.23)	掛川市生涯学習センター 〔静岡県掛川市〕	(公社)日本おもと協会	後援 会長賞
	「TOKYO GREEN2020」 推進会議キックオフフォーラム (H26.11.25)	明治大学リビティータワー1F 〔東京都千代田区〕	(一社)ランドスケープ コンサルタンツ協会	後援
	第23回春雅展 (H27.3.27~3.29)	花博記念公園鶴見緑地 ハナミズキホール〔大阪府鶴見区〕	(公社)全日本小品盆栽協会	後援 会長賞
	「生きている化石・メタセコイアの系譜: 都市創造性と社会デザイン」 (H26.11.21)	大阪市立大学理学部附属 植物園・研究棟会議室〔大阪府交野市〕	大阪市立大学都市 研究プラザ	後援
	街路樹研修会 (H27.1.30)	大阪歴史博物館4F講堂 〔大阪府中央区〕	(特非)おおさか 緑と樹木の診断協会	後援
	淡路花博2015花みどりフェア 国際シンポジウム「パークマネジメントの未来」 (H27.5.14~5.17)	兵庫県立淡路夢舞台国際会議場ほか 〔兵庫県淡路市〕	国際シンポジウム 「パークマネジメントの未来」 実行委員会事務局	後援
	シンポジウム「万博記念公園の価値とその創造」 (H27.3.17)	ホテル阪急エキスポパーク本館2階 月光〔大阪府吹田市〕	万博記念公園の明日を 考える会事務局	後援

ホームページ等
の運営・管理

各事業の情報を適宜更新し、アニュアルレポート等のバックナンバーも新たに掲載しました。また、facebookでも情報発信に努めました。



コスモス国際賞
の広報

最新受賞者情報を掲載したパンフレットを作成し授賞式等で配付しました。
また、2014年(第22回)受賞者の業績、コスモス国際賞の趣意、構成、授賞式及び記念講演等を取りまとめた報告書(変形A4判84頁)を作成(1,400部)し、国内外の関係者に配付しました。



情報等の提供

各種イベント等の主催者に対し、花の万博のノウハウ、情報、写真等の提供を行いました。

海外・国・地方自治体	6件
企業及び個人	14件

2014年度事業実績

その他広報

各事業の周知等のため、印刷物を作成し配布等しました。



国際交流事業

大阪市立大学と共催し、国際シンポジウムを開催しました。
 日 時:平成26年7月22日(月)~24日(水)
 場 所:大阪国際交流会館(大阪市中央区)、
 鶴見緑地(大阪市鶴見区)、大阪市大付属植物園(交野市)
 参加者:約400名
 共 催:大阪市立大学



調査研究・資料収集事業

生物多様性等に関する調査

平成26年度は、生物多様性保全に向けた当協会の新たな事業展開を探るため、日本の固有植物や稀少となった在来植物の研究や保全に関わっている研究者による懇談会を開催し、当協会事業の今後の取り組み等について検討しました。

【メンバー】

岩槻 邦男(東京大学名誉教授)
 奥山 雄大(国立科学博物館・筑波実験植物園研究員)
 倉重 祐二(新潟県立植物園副園長)
 田淵 俊人(玉川大学農学部生物資源学科教授)
 西廣 淳(東邦大学理学部生命圏環境科学科准教授)

里山等における共生に関する調査

東日本大震災被災地域における里山等の環境や文化の再生など復興に役立てるため、京都大学フィールド科学教育センターの協力を得て、兵庫、和歌山において「里山文化」の視点から、里地・里山・里海の連携について調査を行い、東日本大震災被災地域における里山等の環境や文化の再生等復興に役立てるための報告書を作成しました。



組織運営

理事会 平成26年度開催実績

	●開催日	●場 所	●議 題
第82回理事会	平成26年 6月6日(金)	日本工業倶楽部会館 (東京都千代田区)	平成25年度事業報告及び収支決算について 定時評議員会の招集について
第83回理事会	平成26年 7月29日(火)	日本工業倶楽部会館 (東京都千代田区)	2014年(第23回)コスモス国際賞受賞者決定について 特定資産の取崩しについて
第84回理事会	平成26年 3月30日(月)	日本工業倶楽部会館 (東京都千代田区)	平成26年度収支予算の補正について 平成27年度資産運用方針書について 平成27年度事業計画及び収支予算について 平成27年度助成団体の決定について 役員報酬について 資産運用管理委員会規程の改正について 情報公開規程の制定について 顧問、参与の選任について コスモス国際賞委員会委員長及び委員の選任について

評議員会 平成26年度開催実績

	●開催日	●場 所	●議 題
第43回評議員会	平成26年 6月24日(火)	関西文化サロン (大阪市北区)	平成25年度事業報告及び収支決算書類の承認について
第44回評議員会 (決議の省略)	平成26年 9月1日(月)	—	特定資産の取崩しについて

平成26年度決算

貸借対照表 平成27年3月31日現在

単位:円

科 目	当年度	科 目	当年度
I 資産の部		II 負債の部	
1.流動資産		1.流動負債	
現金預金	183,546,087	未払金	44,159,245
未収収益	71,048,486	預り金	596,499
前払金	0	賞与引当金	3,000,359
流動資産合計	254,594,573	流動負債合計	47,756,103
2.固定資産		2.固定負債	
(1)基本財産		退職給付引当金	50,795,900
基本財産普通預金	22,000,000	固定負債合計	50,795,900
基本財産定期預金	838,344,700	負債合計	98,552,003
基本財産投資有価証券	29,655,300		
基本財産合計	890,000,000	III 正味財産の部	
(2)特定資産		1.指定正味財産	
記念基金	9,727,462,238	寄付金	10,000,000,000
退職給付引当資産	50,795,900	基本財産運用益	90,000,000
東北復興支援事業資産	0	特定資産運用益	632,008,000
特定資産合計	9,778,258,138	特定資産評価差額金	△104,545,762
(3)その他固定資産		指定正味財産合計	10,617,462,238
投資有価証券	16,858,313	(うち基本財産への充当額)	(890,000,000)
什器備品	8	(うち特定資産への充当額)	(9,727,462,238)
その他固定資産合計	16,858,321	2.一般正味財産	223,696,791
固定資産合計	10,685,116,459	正味財産合計	10,841,159,029
資産合計	10,939,711,032	(うち基本財産への充当額)	(0)
		(うち特定資産への充当額)	(0)
		負債及び正味財産合計	10,939,711,032

科目	当年度	科目	当年度
I 一般正味財産増減の部		消耗什器備品費	119,370
1. 経常増減の部		消耗品費	874,659
(1) 経常収益		印刷製本費	1,343,735
基本財産運用益	2,195,048	光熱水料費	1,330,352
基本財産受取利息	2,195,048	役務費	14,852
特定資産運用益	247,641,966	委託費	9,819,973
記念基金受取利息	247,641,966	賃借料	1,985,681
受取寄付金	10,000,000	使用料	1,472,955
受取寄付金	10,000,000	保険料	68,250
雑収益	23,500	諸謝金	2,339,261
雑収益	23,500	租税公課	128,340
経常収益計	259,860,514	支払負担金・会費	321,070
(2) 経常費用		支払手数料	261,300
事業費	219,541,410	雑費	28,478
役員報酬	8,274,000	経常費用計	293,276,620
給与手当	40,784,644	当期経常増減額	△33,416,106
法定福利費	6,837,116		
退職給付費用	2,202,910	2. 経常外増減の部	
賞金	2,611,587	(1) 経常外収益	
職員厚生費	666,829	経常外収益計	0
会議費	1,621,093	(2) 経常外費用	
旅費交通費	7,403,676	経常外費用計	0
通信運搬費	2,689,339	当期経常外増減額	0
広告費	1,744,416	当期一般正味財産増減額	△33,416,106
消耗什器備品費	278,531	一般正味財産期首残高	257,112,897
消耗品費	2,040,872	一般正味財産期末残高	223,696,791
印刷製本費	3,135,381	II 指定正味財産増減の部	
光熱水料費	3,104,154	基本財産運用益	24,195,048
役務費	34,653	基本財産受取利息	24,195,048
委託費	22,913,272	特定資産運用益	331,292,011
賃借料	4,633,255	記念基金受取利息	331,292,011
使用料	3,436,894	特定資産償還益等	208,556,000
保険料	159,250	記念基金投資有価証券売却益	4,230,000
諸謝金	5,458,274	記念基金投資有価証券償還益	204,326,000
租税公課	299,460	特定資産評価益	267,962,138
支払負担金・会費	47,373,652	記念基金投資有価証券評価益	267,962,138
支払助成金	11,162,000	一般正味財産への振替	△263,487,059
支払手数料	609,700	一般正味財産への振替	△263,487,059
顕彰賞金	40,000,000	当期指定正味財産増減額	568,518,138
雑費	66,452	指定正味財産期首残高	10,048,944,100
管理費	73,735,210	指定正味財産期末残高	10,617,462,238
役員報酬	3,546,000	III 正味財産期末残高	10,841,159,029
給与手当	34,314,488		
法定福利費	6,552,196		
退職給付費用	1,754,890		
賞金	1,119,252		
職員厚生費	572,169		
会議費	694,754		
旅費交通費	3,173,004		
通信運搬費	1,152,574		
広告費	747,607		

財団の概要(平成27年4月1日現在)

名称	公益財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会 The Commemorative Foundation for the International Garden and Greenery Exposition, Osaka, Japan, 1990
設立趣旨	1990年に開催された国際花と緑の博覧会の基本理念を永く継承、発展させるため、国際花と緑の博覧会記念基金を設け、自然と人間との共生に関する諸事業を行い、もって潤いのある豊かな社会の創造に寄与しようとするものである。
設立年月日	1991年(平成3年)11月1日
公益法人移行日	2013年(平成25年)4月1日
所在地	〒538-0036 大阪市鶴見区緑地公園2番136号

評議員 平成27年4月1日現在(50音順)

評議員	青木保之	(学)東洋女子学園理事
評議員	小河保之	大阪府副知事
評議員	金田章裕	(大)京都大学名誉教授
評議員	坂本忠宣	(特)日本放送協会大阪放送局長
評議員	佐藤茂雄	大阪商工会議所会頭
評議員	佐藤友美子	(学)造手門学院大学地域文化創造機構特別教授
評議員	田中清剛	大阪府副市長
評議員	土井元章	(大)京都大学大学院農学研究科教授
評議員	羽田光一	(公社)日本家庭園芸普及協会会長
評議員	畑中孝晴	(一財)日本花普及センター評議員
評議員	正木啓子	大阪ガス(株)近畿圏部顧問
評議員	増田昇	(大)大阪府立大学大学院生命環境科学研究科教授
評議員	松下正幸	(公財)松下幸之助記念財団理事長

役員 平成27年4月1日現在(50音順)

会長	今井敬	(一社)日本経済団体連合会名誉会長
理事長	角和夫	阪急阪神ホールディングス(株)代表取締役社長
専務理事	宮前保子	常勤
理事	今西英雄	(大)大阪府立大学名誉教授
理事	輿水肇	(公財)都市緑化機構理事長
理事	本間和枝	(公財)宇治市公園公社顧問
理事	森本幸裕	(学)京都学園大学バイオ環境学部教授
理事	和田新也	国際園芸家協会(AIPH)日本代表
監事	北山諒一	公認会計士
監事	堀井良殷	(公財)関西-大阪21世紀協会理事長

顧問 平成27年4月1日現在(50音順)

顧問	中川和雄	大阪日韓親善協会会長
顧問	牧野徹	(公財)日本住宅総合センター理事長

参与 平成27年4月1日現在(50音順)

参与	泉真也	環境プロデューサー
参与	岩槻邦男	(大)東京大学名誉教授
参与	小林庄一郎	関西電力(株)顧問
参与	近藤公夫	(大)奈良女子大学名誉教授
参与	佐々木正峰	(独)国立科学博物館顧問
参与	中村桂子	JT生命誌研究館館長
参与	長倉三郎	日本学士院元院長
参与	波多野敬雄	(学)学園院名誉院長
参与	松本洋	(一財)日本国際協力システム顧問
参与	ルイ・サトウ	在仏建築家

協会事務局 (TEL: 06-6915-4500, FAX: 06-6915-4524)

〈担当業務〉

- ◆総務部 (TEL:06-6915-4500)
〈管理運営、事業総合調整、評議員会・理事会関係、予算・決算、広報、資産運用等〉
- ◆企画事業部 (TEL:06-6915-4516, 4513)
〈顕彰事業、助成事業、普及啓発、国際交流、フォーラム、セミナー、調査研究・資料収集等〉

顕彰事業

1. 2015年(第23回)「コスモス国際賞」

国際花と緑の博覧会(以下「花の万博」という。)の「自然と人間の共生」という理念に合致する研究活動や業績を顕彰し、永く記念するため2015年(第23回)「コスモス国際賞」事業を実施します。

平成27年度は、2015年の受賞選考、決定及び2016年(第24回)の選考準備を行います。2015年の受賞者は7月下旬を目途に決定し、11月5日に授賞式を開催します。また、「コスモス国際賞」授賞式に関連して、受賞者の記念講演会等を開催します。

2. BIEコスモス賞

国際博覧会のテーマに沿った先駆的市民活動に対する顕彰事業として設けたBIEコスモス賞について、2015年ミラノ万博での選考と賞金贈呈を行います。

3. 全国花のまちづくりコンクール

花の万博を契機に「花と緑の国づくり及びまちづくり」を目的として実施されている花のまちづくりコンクール推進協議会に参画します。

助成・協働事業

1. 調査研究、行催事等助成事業

花の万博理念の継承発展及び普及啓発に資する「調査研究開発」並びに「活動・行催事」を支援するため、全国公募による助成事業を行います。

2. 花とみどりの復興活動支援助成事業

東日本大震災の復旧・復興を花とみどりで支援するため、「花とみどりの復興支援ネットワーク」に参加し、復興活動に対する支援金の提供を行います。

3. 地域協働事業

地方公共団体・企業・ボランティア・住民等と協働して「歴史の道みどりの拠点づくり」、「子供と育てる花とみどりによるコミュニティづくり」等の緑化や花飾り等の事業を実施します。

普及啓発・国際交流事業

1. 次世代育成事業

協会事業に関係する科学者や、知識人等を講師に派遣し、セミナー(自然観察教室、小学校への講師派遣)を実施します。また、毎日新聞大阪本社との共催による学校ビオトープ事業「小・中学校における生態園づくり」を実施します。

2. 花育推進事業

花や緑を児童教育等の中に取り入れることを目的とした「花育活動」の推進のため、花育推進セミナー・交流会、花育ワークショップ等の開催等を支援します。

3. 都市緑化推進運動等への協力事業

都市公園の整備、民有地の緑化により都市における豊かな生活環境の実現を目的とする「都市緑化推進運動」及び住民参画のまちづくりを推進する「まちづくり月間」に協力します。

4. 普及啓発事業

花の万博開催地の大阪で開催される「大阪都市緑化フェア」、「はならんまん」などの普及啓発イベントに協力するとともに、みどりのまちづくりに貢献する建物や緑化活動を表彰する「みどりのまちづくり賞」に、主催者の一員として参画し、実施します。

また、「コスモス国際賞受賞記念講演会」を、高校生や一般を対象に実施するほか、花の万博25周年を記念した行催事等には一定の協力を行います。

5. 国際交流事業

2016年、トルコのアンタルヤで開催が予定されている国際園芸博覧会への日本国政府出展に協力します。コスモス国際賞の受賞者・内外の研究機関等を活用した研修事業等を行います。

調査研究・資料収集事業

1. 生物多様性等に関する調査

生物多様性の保全や、動植物の生息地や保存等に関する情報収集を行うとともに、わが国の固有種や在来植物と文化等について、広く情報を発信します。

2. 里山等における共生に関する調査

過年度の東北地方、関西を対象とした地域特有の花とみどりに関わる伝統的文化に関する調査結果を踏まえ、双方の比較を行い、被災地のコミュニティの復興やまちづくりに役立つよう情報発信等を行います。



公益財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会
〒538-0036 大阪市鶴見区緑地公園2番136号
TEL.06-6915-4500 FAX.06-6915-4524
<http://www.expo-cosmos.or.jp/>

表紙の写真：「バラ」

2014年(第22回)コスモス国際賞授賞式に用いたコサージュ、ブートニアで、デスコラ博士が
住むフランスで作出されたバラ「パルメイアン」をモチーフにデザインしたものです。